

体験型海外教育実地研究 第8学年 異文化理解

「Think Global, Act Local」

教育学研究科 学習科学専攻 学習開発基礎専修 藤井 瞳

1 はじめに

学校と家庭・地域の連携について研究している私は、授業や書物などで何度も取りあげられていたアメリカの学校経営について興味があり、いつか学校を実際に訪問してみたいと考えていた。

「初めて行くアメリカで、しかもかなり苦手な英語で、現地の子どもに授業をする」ことにはかなりの不安があったが、友人の勧めや説明会で昨年度の参加者の方が「とても充実した日々を送れた」と話されているのを聞き、本研修への参加を決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例,		部屋割り
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ (準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島—成田 0755-0935 (NH-3236) 成田—ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス—ローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 — (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上

9/16	月	City Hotel →Eppes M.S. (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Eppes M.S.) ・教頭先生より学校案内を受ける。 ・校長先生より学校についての説明 ・授業見学 ・授業実践	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel →Eppes M.S. (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Eppes M.S.) ・授業見学 ・メンターの先生のお話を聞く。 ・校内誌を作る子どもたちからインタビューを受ける。 夕食は ECU で。	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECUバス) ECU → ローリー (ECUバス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 ローリーの町並みを探索し、地元住民の方やお店の方と会話する。	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で、Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 自然史博物館、キッズミュージアムの見学。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー—ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港—ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair スミソニアン博物館見学, アメリカのマクドナルドを体験する。	Washington DC(同上)
9/22	日	ワシントンダラス—成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田—広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第8学年 異文化理解「Think Global, Act Local」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

本授業のねらいは、生徒にとって身近であるだろうマクドナルドが、日本をはじめとした世界各国に広がり独自のメニュー展開をしていることに気づくことを通して、経営理念である“Think Global, Act Local”を理解し、グローバリゼーションについて知ることである。実際に地元ノースカロライナのメニュー作りを行うことによって“Think Global, Act Local”を実践することもねらいとしている。

② 準備したこと

マクドナルドの経営理念や方針、現在の経営状況などについて、日本マクドナルド社やマクドナルド社のホームページをもとに調べた。また、インド・イタリア・日本のメニュー比較を行なうために、インドとイタリアのマクドナルド社のホームページも参考にし、独自のメニュー表を作成した。

マクドナルドクイズなどは、言葉の問題を補うためと画像を用いたかったため、パワーポイントのスライドを作成した。万が一パソコンが作動しなかったときのために、スライドや画像をB4サイズで印刷しておいた。

英語の苦手意識をなるべく減らすために、学内の英語講座”English Listening and Speaking with the Beatles”を受講し、修了した。



3.3 学習指導案

Lesson Title : Think Global, Act Local

Lesson Author : Hitomi Fujii

Date : September 16th, 2013

Grade Level : 8th

Subject : Culture

Description : In this class, students will know the world “Glocalization” by learning about McDonald’s philosophy.

Objectives : As the result of this activity, students will be able to

1. Know how Japan and other countries receive American culture of McDonald’s.
2. Understand the meaning of the word ”Glocalization”.

Procedure :

Activity	Instruction of teacher	Materials
1. Answer quizzes about McDonald’s.	1. Introduce the McDonald’s activity. •How many McDonald’s shops in America, Japan and the world? •What Country’s menu ?	•World Map •Pictures (e.g. hamburgers, Shops)
3. Learn about	3. Show the McDonald’s philosophy	

McDonald's philosophy.	"Think Global, Act Local and Sell like a Retailer"	
4. Design a North Carolina's hamburger.	4. Let them design a local hamburger freely.	<ul style="list-style-type: none"> ・Work sheet ・Colored Pencils ・Color Pens
5. Learn about "Glocalization".	5. Explain "Glocalization" of culture.	

3.4 授業の実際

- (1) 自己紹介の最後に好きな食べ物屋さんの外観（日本のマクドナルドの都市型店舗）をパワーポイントで提示した。ヒントとして、隠しておいたゴールデンアーチとドナルドを見せるとすぐにマクドナルドであることに気づけた。
- (2) 「マクドナルドクイズ」と称し、全世界の店舗数や、店舗の多い国ランキングなどを三択で出題した。その後、「イタリア」「日本」「インド」のうちどの国のメニューなのかを自作したメニュー表から考えさせた。
- (3) McDonald's philosophy として " Think Global, Act Local and Sell like a Retailer" を提示し、なぜ国によってメニューが異なっているのかについて説明した。
- (4) 地元ノースカロライナのメニューを作ることを説明し、ワークシートにメニュー名とイラスト、紹介文を記入させた。（ワークシートは回収し、翌日返却した）
- (5) 最後に授業者の思う国際交流で大切なこととして「自分たちの文化に誇りを持つこと・他の人の文化を理解すること・お互いの文化を受け入れること」という三点を伝えた。

3.5 考察

今回の研修での成果として以下の三点が考えられる。

一点目は、マクドナルドの店舗の外観はパワーポイントで、メニューはカラー印刷したものを一人一枚配布するといった、視覚的に訴える提示方法を目的によって使い分けられた点である。じっくり見せたいメニュー表をカラーで配布したことによって、どのような食材を用いて作られたメニューなのかを判別することができたように思う。

二点目は、子どもからの質問に対して、電子辞書や筆談、ジェスチャーなどを使ってなんとか答えることができた点である。ある程度の質問の予想はしていたが、想定外の質問がやはり多かった。なんとかして質問の意味を理解し、伝えようと電子辞書を使ったり、単語を書きあったりと考えられる手段を使った。そうしたやりとりの最中に、生徒同士で、質問の意味をわかりやすく言い換えて私に伝えてくれたり、私の発言を言い換えてくれたりした。生徒が私とのやりとりに積極的な姿勢を見せてくれたことが本当にうれしかった。

三点目は、ほぼ全員の子どもが、ノースカロライナのオリジナルメニューとして、地元の特産品などを使ったハンバーガーやドリンク、デザートを考えられた点である。教頭先生や担任の先生による子どもたちへのアドバイスや注意によって、成立した要因が大きいと思うが、ワークシートには様々な工夫を凝らしたハンバーガーやドリンク、サイドメニューが記入してあった。「ノースカロライナで有名なベーコンを使った」や「ノースカロライナでポピュラーな飲

み物のスウィートティー」といった紹介文から、子どもたちが地元の特産品を意識して使ったメニューを考えていたことがうかがえる。

また、次の三点が課題として残った。

一点目は、授業規律を保つことができず、教頭先生や担任の先生に何度も子どもたちを注意させてしまった点である。原因として、指示が伝わっていなかったこと、作業が終わった子に対する指示が足りなかったこと、私語なのか相談なのかの判別がつかなかったことがあげられる。

二点目は、回収したワークシートに対して、具体的なコメントをして返却することができなかった点である。異文化理解の授業ということもあって、評価をしてもよいのかも迷ってしまった。ただ波線を引くだけではなく、「記述のどの部分が特によかったか」や、「私も食べてみたいになりました」のような子どもとのやりとりができるようなコメントを記入できれば、見返したくなるワークシートになったのではないかと思う。

三点目は、最後のまとめとして「異文化交流の大切なこと」と提示したが流れにあっていなかった。“Think Global, Act Local”として提示すれば統一性があつたのではないかと思う。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

実際に授業を行い、一番感じたことは、日本人もアメリカ人も「子どもは子どもなんだ」ということである。授業がおもしろければ先生の話聞いて発言をするし、つまらなければ手遊びをする。「授業中は静かにしなければならぬ」と何度言われても、やることがなければ私語をしてしまう。そんな当たりまえのことを想定しないまま、授業実践をしてしまったために、私の授業では、授業規律を乱してしまうこととなった。今までの実習等で行った授業では「学習規律をしっかりと守らせている」との評価を頂いていたので、今回特に気にせずに授業の想定をしてしまったように思う。教師として授業を行う上で、授業規律の大切さについてあらためて気づかされた。

今回の研修に参加した大きな要因であった、アメリカの学校経営については、二つの中学校を見学し比較することによって理解を深めることができた。

Eppes ではいわゆる進学クラスから、支援が必要なクラス、少し荒れているクラスと様々なクラスの授業風景をみることができ、アメリカの公立中学校のあるがままの姿を見学することができた。特別な支援を要する子どもに専属の教員をつけたり、学習が得意な子と苦手とする子を教科によってわけたりすることで、一人ひとりの子どもの学習権を保障している制度のように感じた。

一方、Exploris では、州で上位の学力を誇る学校としての取り組みをみることができた。以前は、博物館附属の中学校であったそうだが、州から切り離され、今はチャータースクールとして運営していると聞き、何ともアメリカらしい学校経営だと感じた。寄付を募るための用紙には、学校の運営費の内訳や教育目標と成果などが書かれており、学校評価が運営費を左右する状況を見て取れた。

両校ともに感じられたのは、教室や学内の掲示物を大切にしているということである。カラフルな色遣いの掲示版には、教室内のルールや学校のモットー、学習内容についてなどの掲示物が貼られていた。いつも意識させるべき内容を掲示しておくことは、教室環境を整える上で

とても大切なことだと感じた。

また、ホテルの一室に集まって行った報告会では、異なる学校の様子や、同じ学校を別の視点から見た意見・感想について聞くことができ、自分とは異なる専門の視点からもアメリカの教育を捉える事が出来た。

4.2 自分自身についての変容

「英語はコミュニケーションツールの一つである」と考え、いろんな人と交流ができたことが大きく変容した点であると思う。高校時代から続く英語嫌いによって、なかなか英語と向き合うことができなかつたが、今回事前準備を兼ねて受講した学内の英語講習で「英語を通して」学ぶという経験を初めてすることができた。研修中で出会った子どもたちとのやりとり、ECUでの学生とのやりとりにおいても、英語のスキルだけではなく、「自分が何を伝えたいのかといった意志をしっかりと持つ」、「(相手が何を言っているのかを知るために)相手の気持ちや状況を考える」といった人とのやりとりで当たり前に必要なとされることの大切さにあらためて気づくことができた。

4.3 グローバルマインドに関する変容

今回、アメリカで異文化理解の授業を行なうにあたって、アメリカの子どもたちに日本の文化を伝えるのではなく、アメリカの文化が日本でどのように受け入れられているのかといった視点からアメリカと日本の関係を考えられないかと思い、マクドナルドを題材とすることにした。アメリカの子どもにマクドナルドを題材とした授業を行うことは不安もあったが、挑戦してよかったと思う。

「異文化交流において大切なことは何か」という問いに対し、授業作りを通して「自分の文化に誇りを持ち、相手の文化を理解し受け入れること」という一つの考えにたどり着いた。他国だけではなく、日本の文化や歴史についてもっと理解を深め、誇りをもって世界に発信できるようになりたい。

5 おわりに

今回の研修では、アメリカ現地での授業実践や授業見学、ホームパーティーへの参加、大学での授業、博物館見学、街並み探索など様々な経験をすることができました。今までに築きあげられた GPSC のネットワークがあつてこそその経験であつたと思います。このネットワークの素晴らしさから、人と人が互いにもてなし、感謝し合うことの大切さを痛感しました。

今回の体験型海外教育実地研究では、事前指導から多くの先生方にご指導をいただき、大変実りある研修とすることができました。今回の研修に携わっていただいた多くの先生方と子どもたち、そして研修のメンバーに心から感謝申し上げます。

引用・参考文献

1. 日本マクドナルド <http://www.mcdonalds.co.jp/> (2013/09/11 取得)
2. McDonald's <http://www.mcdonalds.com/us/en/home.html> (2013/09/11 取得)
3. McDonald's Italia <http://www.mcdonalds.it/> (2013/09/11 取得)
4. McDonald's India <http://www.mcdonaldsindia.net/home.aspx> (2013/09/11 取得)